

さくらまち 桜町遺跡 (仁位館跡)

事務局

はじめに

桜町遺跡（仁位館跡）は、対馬島のなかほどの下県郡豊玉町仁位に所在する。平成6年8月から9月にかけて長崎県立豊玉高校の運動場およびテニスコートの整備にともない、長崎県教育委員会によって範囲確認調査が実施された。

1. 地理的環境

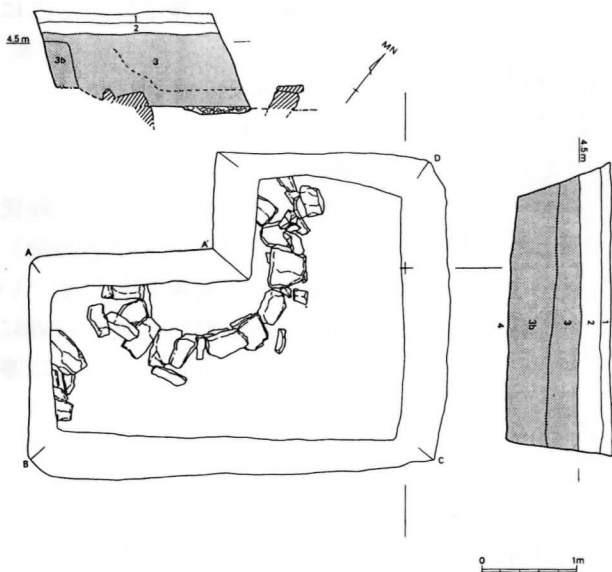
桜町遺跡は、豊玉町の中央部にある仁位の北部、天神山の山裾に立地する弥生時代から中世にかけての遺物散布地・館跡である。仁位の集落は、三方を山地で囲まれ、仁位浅茅湾の最深部に開けた平地上に形成されており、町役場・学校・商店街など町政・商工の中心地として機能している地域である。



第1図 仁位館位置図 (1/25,000)

2. 歴史的環境

この地は、貞和元年（1345）筑前宗像に居を据えた宗盛国が、島政改革のため次男頼次を対馬に派遣しており、その中心地として政庁が開かれた地域である。その後、上県郡峰町の佐賀に政庁が移転するまでの約50年間、島政の要衝の地として機能していた。明治の字図には館跡を中心としてその周辺に、短冊型地割の当時の町屋敷の名残が窺われる。また現在、校舎裏の山裾には、仁位館頭彰碑と祠が建てられている。



第2図 井戸跡 (S=1/80)

3. 調査概要

調査は、豊玉高校運動場・テニスコートの整備工事に伴うものであり、28箇所の試掘坑を設

定し発掘調査を実施した。調査は表土を重機で、その下を人力で掘削したが、グラウンド部は数回の転圧により硬く締まっております、かなり難航した。

校舎裏のテニスコート部はアスファルトで表層されており、カッターで折断した後、重機掘削を行ったが、昭和51年の新校舎建設の際の盛土跡が1.5m観察され、下から中世・古墳時代の遺物が出土した。

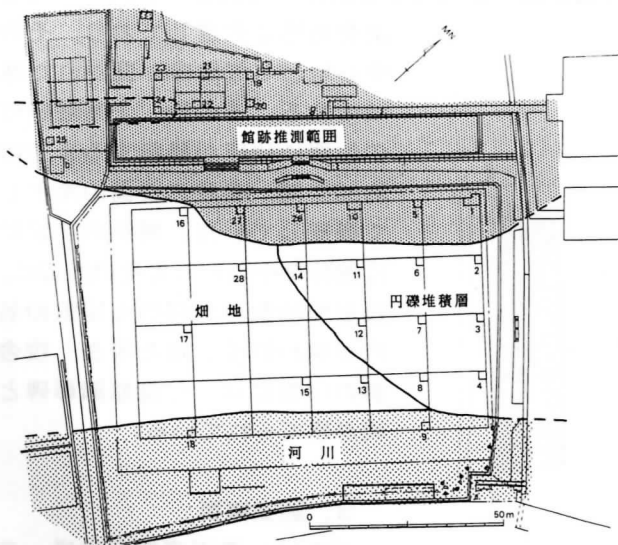
またグラウンド部は、校舎側第1・5・10・26・27試掘坑で遺物包含層が確認され、貿易陶磁として中国製青磁片（越州窯青磁・龍泉窯系青磁・同安窯系青磁）・中国製白磁・明青花・粉青沙器・朝鮮王朝白磁・灰青陶器・雑釉陶器などが出土している。国産土器としては、土師器等の中世土器、古代の玄海灘式製塩土器、古墳時代の土師器・陶質土器等が出土した。また、第1試掘坑では井戸跡（第2図）、第10試掘坑では柱穴、第27試掘坑では炭化物土坑が検出され、その周囲に白銅鏡が出土した（第3図）が、いずれも中世と考えられる。



第3図 出土鏡 (S=1/2)

4. まとめ

今回の調査で、仁位館に関する遺構・遺物が現校舎周辺の試掘坑で確認され、当地に館跡が存在することは疑う余地はない。またその下には古墳時代の遺構の存在も推測された。協議の結果、盛土工法により遺跡は保護されることになった。



第4図 仁位館跡遺範囲推定図 (S=1/2,000)

【追記】

本稿は調査担当の寺田正剛氏（現 長崎市立茂木中学校教諭）が作成された結果報告に基づいたものであるが、本稿の記述に関して生じる責任のすべては事務局が負うものである。